

九州北部豪雨災害復興支援

# 大地の鼓響2018 in あさくら

三善 晃 ～和太鼓と合唱の世界～

中新田縄文太鼓伝承会・国宝松本城古城太鼓・あさくら讃歌合唱団

三連水車

写真提供：朝倉市

◆開催日／2018年 **9月23日**(日曜日) ◆開 演／午後2時

◆会 場／朝倉市総合市民センター・大ホール(ピーポート甘木)

■主催／あさくら讃歌合唱団

■共催／朝倉市・朝倉市教育委員会・甘木連合文化会

■後援／筑前町・東峰村・甘木・朝倉広域市町村圏事務組合・朝倉市文化団体連合会・筑前町文化協会・東峰村文化協会  
西日本新聞社・毎日新聞社・RKB毎日放送・九州朝日放送・FBS福岡放送・TNCテレビ西日本・TVQ九州放送

助成：



芸術文化振興基金





ここ数年、全国に、全世界に異常気象により大きな被害が数多く発生しています。そうした中、朝倉で被災された人々への安らぎと、また亡くなられた方々への追悼の演奏会を開催することになり、多くの皆様に力強いご支援を頂き、有難うございました。東峰村で亡くなった仲間の熊谷みな子さんも今日の開催に向け、会議の中で期待の発言をされていました。彼女のその気持ちを本日の出演者全員で共有し演奏いたします。

「大地の鼓響」の開催は、朝倉市郡の広域行政、宮城県中新田町、長野県松本城古城太鼓の3団体の強い要望に作曲家三善晃先生が応えられた結果、和太鼓を共通項のふるさと鼓舞の曲が創出されました。17年前、三善晃先生が館長をされていた、上野の東京文化会館に於いて、三善先生の提案で3団体の初共演を行いました。「大地の鼓響」のタイトルも先生が命名され、その先生の思いも重なり、交流を深めて参りました。また、打楽器奏者の高橋明邦先生の存在もまた、3者を固く結びつけるものでした、本日も指揮を執って頂きます。有難うございます。これからもこの3団体は交流を続けて参ります。伝統文化の継承に全力を挙げて取り組みます。本日はご来場いただき有難うございました。どうぞごゆっくりお楽しみ下さいませ。

大地の鼓響2018inあさくら実行委員長  
あさくら讃歌合唱団代表

坂田 啓明



この度は「大地の鼓響2018inあさくら」の開催、誠にありがとうございます。

まず、昨年7月5日から6日にかけて、あさくらの地を襲った九州北部豪雨の件、志半ばで逝かれた団員の方へのお悔みを申し上げます。しかし、あさくら讃歌の皆様が水害復旧の大変な日々にもかかわらず、真の復興に向けてご尽力されておられるご様子、天皇皇后両陛下がご臨席された2001年東京文化会館での「大地の鼓響」をまざまざと思い出させて頂き、逆にこちらが励まされました。

おかげさまで、東北の地においての中新田縄文太鼓も25周年節目の演奏会を先の3月11日、東日本大震災の日から7周忌に中新田パッハホールで開催、「太鼓も祈り、歌も祈り、踊りも祈り、笛も祈り、世界のあらゆる音楽は祈りから始まった」とのメッセージは好評を博しました。

あさくら讃歌は筑後川を永遠の川と歌います。今回、間近で三連水車に触れ、一緒にピーボート甘木での舞台を踏ませていただくことは中新田縄文太鼓にとってもまたとない貴重な機会です。ちまたでは「縄文の美」が再認識されています。本日の舞台でも宗左近・三善晃両先生が中新田縄文太鼓に託された「縄文の祈り」を見出して頂ければ幸いです。

中新田縄文太鼓 会長 大崎 能正



お祝いのことば

「大地の鼓響2018inあさくら」(九州北部豪雨復興支援)の開催を心からお祝い申し上げます。

思い起こせば、平成25年2月、宮城県加美町において、中新田縄文太鼓20周年記念コンサートが終わった時、次は九州・朝倉でお会いしようとお別れしましたが、今年の九州北部豪雨で、果たして3団体による公演ができるだろうかと危惧しておりましたところ、あさくら讃歌合唱団の皆さんの、大変なご努力によって「大地の鼓響2018inあさくら」を開催するとのご連絡を頂き、大変な感激を覚えました。

あさくら讃歌合唱団の皆様の努力に心から敬意を申し上げますと共に御指導をいただいた高橋先生に感謝申し上げます。

我々3団体は、宮城県・中新田、長野県・松本、福岡県・朝倉と、それぞれ異なる地で、産声を上げ、平成13年8月、東京文化会館において「大地の鼓響」と銘打って第1回の公演を開催、以来、平成17年松本、平成25年中新田と継続して、今回の朝倉開催となりました。

日本太鼓と合唱と踊りの新しい伝承文化の創造を求めて立ち上がった「大地の鼓響」シリーズは、東北大震災、九州北部豪雨の未曾有の大災害にも負けず継続されております。

九州北部豪雨災害に見舞われた皆様にご心からお見舞いを申し上げますと共に、「大地の鼓響」が今後とも、末永く継続されますことを願って、お祝いのことばといたします。

国宝松本城古城太鼓 代表 田中 荘太

三善 晃 ～和太鼓と合唱の世界～

# 大地の鼓響2018 inあさくら

◆作曲／三善 晃

◆演出／高橋 明邦

◆司会／女王卑弥呼

川波 菜月 水城 優季

## 中新田縄文太鼓 (1993)

歌、踊り、太鼓、笛  
作詞 — 宗 左近

中新田縄文太鼓伝承会 【宮城県加美町】

踊り指導 — 石田 知生  
横笛指導 — 西川 浩平  
太鼓指導 — 高橋 明邦

## 四季より 秋・夏 (1998)

太鼓、銅鐸、法螺、双盤

国宝松本城古城太鼓 【長野県松本市】

太鼓指導 — 佐藤 健作

## 出陣の譜 (1997)

太鼓、銅鐸、法螺、双盤

## 【合同演奏】 加美町・町民憲章 (1993)

混声合唱、太鼓群  
作詞 — 宗 左近

中新田縄文太鼓伝承会

全出演者  
指揮 — 高橋 明邦

## 古城太鼓の唄 (2002)

混声合唱、太鼓、銅鐸、法螺  
作詞 — 松本 英一

国宝松本城古城太鼓

全出演者  
指揮 — 高橋 明邦

## 【休憩】

## あさくら讃歌 (1992)

混声合唱、太鼓、横笛、謡曲、語り  
作詞 — 後藤 明生  
朝倉高校 昭和27年卒

あさくら讃歌合唱団 【福岡県】

豊中混声合唱団 (大阪府)  
太鼓 — あさくら讃歌太鼓同好会  
横笛 — 藤舎 仁風  
謡曲 — 藤井 重貞  
語り — 橋詰 雅義  
合唱指導 — 西依 生子・行武 須磨子  
指揮 — 高橋 明邦 (合唱・太鼓指導)



## 三善 晃 (作曲)

～日本列島に耳朶をつけ、とおく地底から響いてくる音を聴く～

2001年に東京文化会館の舞台創造芸術フェスティバルの一環として三地域の作品を一挙に合同上演するとき、その総合舞台名を〈鼓響〉とした私は、この言葉にそんなイメージを持った。

もとより「鼓」は太鼓、鼓笛、鼓舞などの「鼓」であり、心臓の鼓動にもこの字が遣われる。鼓・笛・舞は作品群の具体的な表現手段であり、鼓動とはそれぞれの表象にほかならない。その表象を聴くことは、この列島がかってフォッサ・マグマの隆起で形成されて以来この地上に棲んだ人々の足踏みの音—あるときは祝祭の、あるときは戦いの、あるときは祈念の舞い・進み・踊る・足音—がこの大地に残響し、それを今日の私たちが日本列島の鼓動として聴きとることではないか。

「鼓」の偏は(音が出ること)を表し、空海は「ものみな響きあり」と述べて世界の始まりは音とするコスモロジーを示した。宮城県・(旧)中新田の〈中新田縄文太鼓〉、長野県・松本の〈国宝松本城古城太鼓〉、福岡県・朝倉の〈あさくら讃歌〉は、まさしくそれぞれ日本列島の鼓動だ。私はときおりこの列島中心部の信濃と上野の国境に立って、重畳たる列島の山脈をみはるかす。するととおく北東からは陸前〈縄文〉の、西南からは筑前〈讃歌〉の鬱然たる地響きが、私が立つ信濃〈古城〉の山麓に伝わってくる。この地響きこそ、日本の無形の世界遺産でなくて何であろう。私たちの誇るべき風土でなくて何であろう。

「大地の鼓響2005inまつもと」のプログラムより転載

1933年、東京生まれ。1960年東京大学文学部卒業。1963年東京芸術大学講師、1966年桐朋学園大学教授、1974年から1995年まで同大学学長。留学前から尾高賞(今までに6回受賞)、毎日音楽賞を受賞。他にイタリア賞、芸術祭賞、NHK作曲賞、東京都文化賞、モービル賞など多数受賞し、1989年に日本芸術院賞を、1984年のフランス政府学術文化賞パルム・アカデミークにつづき1996年には同国政府より文芸オフィシエ賞を受勲する。1995～2004年3月東京文化会館館長をつとめた。1999年12月芸術院会員となる。2001年11月文化功労者に選ばれた。2013年没。



## 高橋 明邦 (指揮／太鼓指導)

桐朋学園打楽器科卒。打楽器を小林美隆、マリンバを安倍圭子、合奏・指揮法を齋藤秀雄の各氏に、独自に長唄囃子を六世藤舎呂船に師事。在学中より東京交響楽団(～74)、作曲家三木稔氏の誘いで日本音楽集団(70～10)に所属。新星日本交響楽団(現・東フィル／76～82)、サイトウキネン(84～01)に在籍。東京混声合唱団、日本オペラ協会、日本現代音楽協会等で新作初演多数。又、日本音楽集団研究科(72～82)、NHK邦楽技能者育成会(88～95)講師。国内の地域創造活動の関与も多く、特に作曲家三善晃氏と共に「あさくら讃歌」福岡県朝倉市(91～)、「中新田縄文太鼓」宮城県加美町(92～)、「国宝松本城古城太鼓」長野県松本市(96～06)を育成。現在、桐朋学園大学特別招聘講師(02～)、障害者塾「ゆきわりそう」太鼓教室室長。新宿区立障害者施設「シャロームみなみ風」太鼓講師等、生涯現役続行中。

# 中新田縄文太鼓



## ◆ 加美町の紹介

加美町(かみまち)は、宮城県北西部に位置する農業と商業が中心の田園町です。県都仙台市から北西約40キロメートルに位置し、車で約1時間です。西側は奥羽山脈を隔てて山形県尾花沢市に、南側は宮城県色麻町に、北から東側は宮城県大崎市に接しており、面積は約460平方キロメートルです。地形は、西側が山岳、丘陵地で、ブナ林を有する船形山や加美富士と呼ばれる町のシンボルである薬菜山(やくらいざん)がそびえています。西から東に、鳴瀬川、田川が貫流し、その流域には肥沃な田園地帯が広がりを見せ、世界農業遺産に登録された豊饒な田園地帯である大崎平野の西側を占めて、四季折々の自然の変化が満喫できます。気象は寒暖の差が大きい内陸型気候に属し、西側の山岳・丘陵地帯は降雪量も多く、豪雪地帯に指定されています。年間平均気温は、11.2度、年間平均降水量は1,186mmです。

平成15年に、加美郡4町の内、中新田町(なかにいだまち)、小野田町(おのだまち)、宮崎町(みやざきちょう)の3町(色麻町(しかまちょう)を除く)が合併して、加美町が誕生しました。加美町の現在の人口は、約23,600人です。中新田縄文太鼓は、旧中新田町で制作されたものです。



## ◆ 中新田縄文太鼓

中新田縄文太鼓は、旧中新田町の新しい伝統芸術の創造を目指して制作されたもので、詩人の宗左近氏の詩に作曲家の三善晃氏が作曲した作品です。

「曙」、「火焰」、「宇宙」、「未来」の全4章から成り、太鼓群は13パート31台の和太鼓を叩き、笛群は篠笛と能管を吹き、踊り群はステージや客席を踊り、飛び廻り、歌群は歌い、唸り、かけ声をかけます。

町の伝統芸能「火伏せの虎舞」と並ぶ創造芸術として育成するとともに、より地域に根付いた活動を展開しようと、平成5年3月26日に、プロの演奏家の手を借りて、中新田パッハホールを会場に初演演奏会を開催しました。その後、広く参加者を募り、子供からお年寄りまで多くの町民が参加して、中新田縄文太鼓伝承会を結成して、練習と発表会を繰り返し、今年創立25周年を迎えました。

### ■ 中新田縄文太鼓伝承会

太鼓 尾出弘子／櫻井紗矢香／近田知佳／佐々木まきえ  
鈴木広幸／岩崎のどか／佐々木美咲／佐々木晴菜  
佐々木裕子／遠藤正樹／丹恵／熊谷祥子  
中島直／岩崎行輝／塩浜玲子

笛 今野すみえ／佐々木弘毅／佐澤史朗

踊り 阿部わか／小笠原悦子／情野洋子／渋谷浩子

歌 岩崎孝子／氏家敬子／大崎能正／佐々木妙子／早坂博子  
水上範子／渋谷正彦



# 宗 左近 (そう さこん) (作詞)

1919年北九州市に生まれる。東京大学文学部哲学科卒業。詩人。法政大学、昭和女子大学で、フランス語、哲学、美学を教える。

詩集「炎える母」で歴程賞、「藤の花」で詩歌文学館賞、詩論集「宮沢賢治の謎」で岩手日報文学賞を受賞。平成16年には、それまでの詩作に対し、スウェーデン国の第1回チカダ(蟬の声)賞を受ける。一貫して日本人の鎮魂を歌う。「瞳に愛を」(旧宮城県中新田町町歌)、「中新田町民憲章」、「中新田縄文太鼓」を作詞。選考委員長として、旧中新田町が主催した現代詩、現代俳句のコンクール未来賞を継続開催し、著名な詩人、俳人、評論家とともに、若手の詩人、俳人の発掘に尽力し、地方で開催する現代詩、現代俳句のムーブメントとして注目される。旧中新田町に多数の縄文土器を寄贈する。亡くなるまで、こよなく中新田を愛し、セカンドハウスとして中新田に住んだ時期もあった。

2006年6月20日に永眠。中新田図書館の正面入り口に記念樹の枝垂れ桜が、夫人のものと共に2本向かい合って植えられている。

## 縄文太鼓よ

## 宗 左近

### 縄文火焰太鼓

縄文 雷 縄文 稲妻  
 ああ 世界  
 引き裂かないなら 愛ではない

縄文 火の雲 縄文 雲の火  
 ああ 世界  
 滾らないなら 恋ではない

縄文 朝焼け 縄文 夕焼け  
 ああ 地球  
 煌めかないなら 生命ではない

縄文 焰の波 縄文 波の焰  
 ああ 地球  
 吊りあげないなら 祈りではない

縄文 渦巻き 縄文 竜巻き  
 ああ 宇宙  
 取り憑かないなら 魂ではない

縄文 きみたち 縄文 ほくたち  
 ああ みんな  
 燃えあわないなら 夢ではない

縄文 日本の日本 縄文 宇宙の宇宙  
 おお 火焰  
 噴き出さないなら 未来があろうか

縄文 縄文 縄文 縄文

### 縄文宇宙太鼓

ほっかり  
 夢の露  
 草のさきから  
 露の薫から

ほんのり  
 夢の虹  
 目高の口から  
 鮎の目から

ゆらゆら  
 夢の死者  
 青い落葉から  
 水の月から

のぼってゆく おののきながら

にじんでゆく ゆれながら  
 ひらいてゆく はにかみながら

ああ むこうのむこう  
 あちらのあちら  
 宇宙の瞳

露の夢  
 ほっかり

虹の夢  
 ほんのり

死者の夢  
 ゆらゆら

### 縄文未来太鼓

噴きあがる 炎と炎  
 燃えあがる 祈りと祈り

太鼓 たたけ おれたち たたけ  
 縄文 おどれ 星たち おどれ

みんな みんな 未来 未来の未来

煌めけ おれたち 炎と炎  
 太鼓 たたけ 宇宙 たたけ  
 昼のなかでも 銀河 湧く

生きたら生きる 生きたら生きる  
 生命が花になる日まで

みんな みんな 未来 未来の未来

輝やけ おれたち 祈りと祈り  
 縄文 おどれ 宇宙 おどれ  
 夜のなかでも 太陽 昇る

みんな みんな 未来 未来の未来  
 死んでも生きる 死んでも生きる  
 愛が光になる日まで

噴きあがる 炎と炎  
 燃えあがる 祈りと祈り

太鼓 たたけ 未来 たたけ  
 縄文 おどれ 星たち おどれ

生きたら生きる 生きたら生きる  
 生命が花になる日まで

死んでも生きる 死んでも生きる  
 愛が光になる日まで

太鼓 たたけ 未来 たたけ  
 縄文 おどれ 星たち おどれ

太鼓 おどれ みんなみんな おどれ  
 未来 おどれ 未来未来 おどれ

# 国宝松本城古城太鼓



## ◆ 松本市の紹介

松本市は、西に槍・穂高連峰、東に美ヶ原高原など日本を代表する雄大な山々に囲まれ、国宝松本城を中心に発展してきた城下町で、歴史を感じさせる建物や街並みが今も残っています。

北アルプスの玄関口として多くのアルピニストを迎える「岳都」、スズキメソードやセイジ・オザワ松本フェスティバルに代表される音楽の「楽都」、旧開智学校や旧制松本高等学校当時から受け継がれてきた、学問教育を重んずる「学都」の「三ガク都」を標榜しています。

松本のシンボルである国宝松本城は、文禄(1593～1594)時代に建てられた五重六階の天守閣としては日本最古のお城で、幾たびかの存続の危機を乗り越え、四百余年の風雪に耐え、戦国時代そのままの天守が保存されています。北アルプスを抱いた威風堂々とした姿と、季節ごとに見せるさまざまな表情が美しく、市民から親しまれています。



## ◆ 国宝松本城古城太鼓

国宝松本城古城太鼓は、1999年3月松本城に太鼓門が復元されたのを記念し、その3年前の1996年に設立されました。信州の城下町・松本の伝統を踏まえ、音楽都市松本の和太鼓として、和太鼓のオーケストラを目指しています。三善先生には、松本城を武者集団が威風堂々と出陣する様子をイメージした「出陣の譜」、信濃の四季を表現した「太鼓の四季」というオリジナル曲を作っていただきました。毎年松本城で行われる新春祝賀式・古式砲術演武(火縄銃の実演があります)・国宝松本城太鼓まつりなどに参加しており、とくに11月の松本市民祭では、武者に扮した行列の出陣式にて、「出陣の譜」を演奏しております。2016年には神奈川県湘南春まつりにも参加いたしました。

高橋明邦氏の指導で始まり、現在は和太鼓奏者・佐藤健作氏に指導を受け、繊細さと同時に迫力も表現できる太鼓をめざし練習を重ねています。

### ■ 国宝松本城古城太鼓

太鼓 山田久代／福島さやか／胡桃沢亜依／伊藤雄太  
山本幸恵／関隼司／吉澤由紀子／斉藤敬四郎  
加部麻子／神田彬文／宮田政子／宮田大志  
神田美奈子／宮島明日香／小口加代子／山本權  
加藤大輔／平野数己／市川裕子

### ■ スタッフ

古城太鼓運営委員長 増田博志  
古城太鼓運営委員 百瀬友宏  
古城太鼓運営委員 中澤啓  
古城太鼓運営委員 伊藤和子



# 松本 英一 (作詞)

## ～国宝松本城古城太鼓の唄～

東京文化会館での「大地の鼓響」公演後、古城太鼓も自分たちで歌える歌が欲しいとの声が上がリ、古城会会員で作詞家でもある松本英一さんに作詞を依頼し、作曲は三善晃先生にお願いして平成14年暮れに完成しました。

作詞を担当された、松本英一さんは、団員の練習する姿や、お城などで公演している古城太鼓の活動を見て作詞されたと聞いております。

特に3番の「セカイの窓をみつめつつ」は、将来松本城が世界遺産に登録されることを願って作詞したと話されました。

作曲を担当された三善晃先生は、ちょうどヨーロッパにご出張中で、古城太鼓の詩を見られ、想を練られ数日で完成されたと話されておられました。

松本英一さんは、若い時から歌謡曲の名手でもあり、各種のど自慢大会で優勝され、また「信濃路松本城」も作詞されております。平成22年9月、74歳で永眠されました。

## 古城太鼓の唄

## 松本 英一

*♩ = 100*

いし ざいれ しゅつじんの の ほらの つめ ねが  
し だの ま ぐくらを ー ー み つめ なつ  
いし ざいれ しゅつじんの の ほらの つめ ねが  
し だの ま ぐくらを ー ー み つめ なつ

し だの ま ぐくらを ー ー み つめ なつ  
いし ざいれ しゅつじんの の ほらの つめ ねが  
し だの ま ぐくらを ー ー み つめ なつ

あこ し しょう き たい え たの ち は サ バ キ  
こ じょう だ い  
こ じょう だ い



# あさくら讃歌

## ◆ 甘木・朝倉の紹介

甘木・朝倉圏域は、福岡県のほぼ中央部に位置し、朝倉市・筑前町・東峰村の3市町村で構成されている地域です。地域の形状は東西に長く、西に小郡市や筑紫野市・東に大分県日田市・北に嘉麻市・南にうきは市と接しています。地域の面積は約366km<sup>2</sup>、人口は約93,000人で、土地は筑後平野に属し、なおかつ九州一の大河・筑後川の通り道でもあり、肥沃な土壌と豊かな水に恵まれた、農業の盛んな地域です。また甘木・朝倉は自然にも恵まれ、豊かな水資源を有するこの地方を象徴する三連水車(朝倉市)、福岡県随一の湧水量を誇る温泉地で有名な原鶴(朝倉市)、豊かな自然で心が癒される夜須高原(筑前町)、古来の修験場で奇岩・巨石が壮大に群立する岩屋(東峰村)、杉の巨木が荘厳な雰囲気醸し出している行者杉(東峰村)などに象徴された、自然が息づく地域です。

## ◆ あさくら讃歌合唱団

混声合唱組曲「あさくら讃歌」は音楽を通じて故郷への誇りを育み、地域文化の醸成を目的に、甘木・朝倉広域市町村圏事務組合が制作し、1992年5月、母の日に天皇皇后両陛下をお迎えし、初演発表を行った。この素晴らしい、ふるさと讃歌を歌い継いで行こうと「あさくら讃歌合唱団」を1999年に結成。天皇皇后陛下を再びお招きしての、三地域の初競演、第1回「大地の鼓響」2001東京公演は大成功をおさめ、その後の活動に大きな励ましとなる。昨年の豪雨災害で、大切な仲間メゾソプラノの熊谷みな子さんを亡くした。熱心だった彼女の気持ちに応えたいと全団員が思っ取り組んだ今回の「大地の鼓響」、初演から26年、そこに伝統継承を行う責任が存在する。高齢化が進み、若い世代をどう隊列に加えて行くのか、これからの大切な課題でもある。



### ■ あさくら讃歌合唱団

- ソプラノ 青木真紗子／飯田美佐子／大内田咲子／金津愛澄／倉光恵子／佐藤富美子／西田浩子／西依生子／馬場みゆき／原田喜代子  
松元久美子／矢野典子／山本あけみ
- メゾソプラノ 石橋早月／伊藤昌子／梶原孝子／河原マサ子／北島満由美／久保スミエ／杉香代子／辻松枝／仲道玲子／原野悦子
- アルト 井上久美子／井本秀子／上原幸子／江藤千代子／大石美代子／草場富美子／久保登紀子／田中博子／田中ミツエ／永利節子  
西佐紀子／信国照代／広瀬ゆう子／本田真弓／宗岡香鶴／行武須磨子
- テノール 稲本俊次／大庭和久／久保山重敏／坂田啓明／篠崎陽一／福田清一／丸林健二／森川雅紀
- バリトン 江島正剛／久保朝継／高瀬嘉重／行武博／渡邊毅
- バス 青木研二／小川孝文／松尾宏／森貴太郎
- 太鼓 出利葉佳代子／江口千代美／佐々野美智子／大力めぐみ／日野弘美／山内てる世／山内爽也
- 語り 橋詰雅義

## ◆ 豊中混声合唱団

結成は昭和16年。大阪府豊中市を拠点に全国に音を響かせ、音楽の楽しさを伝える活動に力を注がれています。常任指揮者の西岡茂樹さんは三善見先生の作品を数多く取り上げてこられました。その中に出来たばかりのあさくら讃歌があり、初演の翌年1993年大阪市で演奏頂きました。そして、本年3月広島市で「合唱団ある」との共演でも、あさくら讃歌を7月の定期演奏会では、「子どもともに歌うあさくら讃歌」を演奏、後の2演奏は九州北部豪雨への思いがあつてのことでした。本日も西岡さんも含め18名の団員が友情出演して頂きます。



西岡 茂樹  
(常任指揮者)

### ■ 豊中混声合唱団

- ソプラノ 西岡恵子／井元奈津／橋本千恵／鳥井満代／北口由佳子／増田和希子／藤井理緒
- アルト 高野淳子／中相美和／佐野環
- テノール 犬井俊彦／山際康弘／秋山浩太／小林淳平
- バス 梶尾公雄／阪本裕一／松尾寿人／西岡茂樹(常任指揮者)



## 後藤 明生 (作詞) (朝倉高校 昭和27年卒業)

### ～「あさくら讃歌」作詞者の夢～

「あさくら」は卑弥呼伝説の国である。また齊明天皇急逝の地である。「日本書紀」には天皇急逝をめぐる謎めいた神秘的な記述がある。齊明天皇の「朝倉の皇居」から謡曲「綾の鼓」が生まれた。朝倉の皇居跡には「木の丸殿」として今も人々に親しまれている。その木の丸殿から見おろす筑後川は、われわれの意識を遠い記憶以前にさかのぼらせる幻の川である。「エビローグ」に書いたように、過去と現在を、古代と未来を反転させ連続させるメビウスの帯である。「あさくら讃歌」の作詞を依頼されたとき、「幻の川」がまず浮かんだ。

もう一つは、菜の花である。引用した近藤思川の「菜の花の国」は私の母の愛唱歌で子供の頃よく聞かされていた。母は1989年、「あさくら讃歌」を作詞する3年前の6月に85歳で亡くなった。その鎮魂の思いを「菜の花の迷宮」によって何とか普遍化できればと思った。木の丸殿から眺める「幻の川」と「菜の花の迷宮」、これが「あさくら讃歌」の原形=幻像である。そこに甘木・朝倉の歴史、風土、さまざまな伝承をいかに織り込むか。作詞の方法として私は、「萬葉集」などの古歌、謡曲その他さまざまなジャンルを引用するポリフォニーの方法を用いた。また「バッテン」「ゲナ」など朝倉方言の使い方には、北原白秋の詩法を取り入れてみた。「あさくら讃歌」は小説家である私の、生まれて初めての詩である。それが三善見氏の作曲によって混声合唱組曲となり、日本全国のさまざまな合唱団の大勢の歌い手によって歌われることは、作者最大の喜びである。また、そのことによって「あさくら讃歌」が「あさくら」を超えて普遍化することは、作者最高の念願であり、夢である。

1996年12月1日

1997年1月千葉大学合唱団定期演奏会プログラムより転載

## 1. プロローグ/幻の卑弥呼の国は…

幻の邪馬台国は どこでしょうか？  
 幻の邪馬台国は いずこなりや？  
 むかし  
 むかし  
 むかし  
 『魏志倭人伝』に書かれた  
 幻の女王の国  
 幻の卑弥呼の国は…。  
 あなたは どこから来たのですか？  
 そして どこへ行くのですか？  
 私は旅人  
 歩き続ける旅人  
 「未知」としての「過去」を捜し求めて  
 「未知」という「過去」との出遇いを求めて  
 どこまでも  
 いつまでも  
 歩き続ける旅人  
 幻の邪馬台国は どこでしょうか？  
 幻の女王の国  
 幻の卑弥呼の国は どこでしょうか？

## 2. 樹の精霊

あさくらは 精霊の国  
 小石原焼きの 小石原へ行って見給え！  
 英彦山の修験者たちが  
 一本一本植えたという「行者の杉」  
 樹齢は二百、三百、四百  
 そして五百年。  
 中には「行者の父」「行者の母」という杉もある。  
 そして「行者の王」。  
 それらは もはや杉の樹の精霊  
 杉の樹の魂。  
 彼らは  
 どんな声で 何を語り合うのだろうか？  
 風や鳥たちと  
 どんなお喋りをするのだろうか？  
 風や鳥たちと歌う  
 彼らの合唱を  
 こっそり 聞き耳頭巾で聞いてみたい。  
 むかし  
 むかし  
 むかし  
 あさくらの「名乗りの関」を  
 通れなかった旅人  
 通りたくない旅人たちが隠れたという隠家の森  
 その隠家の森の 樹齢千五百年という大楠  
 根回り日本一という楠の王者。  
 また 伝説によれば  
 甘木の須賀神社の「青樟」は  
 甘木の安長寺の「赤樟」と  
 人々が寝静まった丑三つ刻  
 互いにフクロウの声で  
 お喋りをするという。  
 男楠の「青樟」と  
 女楠の「赤樟」は  
 フクロウの声で どんなお喋りをするのだろうか？  
 こっそり 聞き耳頭巾で聞いてみたい。

## 3. 菜の花の迷宮

あなたの  
 私の  
 君たちの  
 僕らの  
 おぼあさんが歌っていた歌。  
 あなたの  
 私の  
 君たちの  
 僕らの  
 お母さんも歌っていた歌。  
 うららうららと 筑紫の春は  
 菜の花田んぼで 名高いお国  
 たんぼうらうら どこまで続く  
 菜の花こがねの  
 御殿へつづく  
 (近藤思川・作詞 「菜の花の国」)

あさくらは 菜の花の国  
 ああ その菜の花の  
 黄金色の迷宮  
 黄金の迷宮  
 その黄金の迷路に迷い  
 迷い  
 迷い  
 迷い  
 さまよい歩き  
 迷子になって 日が暮れた  
 幼かりし日々よ  
 たのしかった日々よ  
 ああ 懐かしい  
 過ぎ去った日々の思い出よ  
 あさくらは 菜の花の国  
 その菜の花の  
 黄金の迷宮  
 「菜の花こがねの御殿」はどこでしょうか？  
 「菜の花こがねの御殿」はいずこなりや？  
 母よ  
 私は その幻の御殿を求めて  
 いつまでも  
 どこまでも  
 菜の花の迷路の中を  
 迷い続けて行きたい。

## 4. エロスとタナトス

人は どこから来て  
 どこへ行くのでしょうか？  
 むかし むかし  
 大宰府政庁の長官となって  
 はるばるやって来た 大友旅人。  
 その旅人が 夜須のどこかで  
 独り酒を飲んだ  
 そのときの歌。  
 君がため 醸みし待ち酒 安の野に  
 独りや飲まん 友無しにして  
 (『萬葉集』 巻四)  
 また 誰でも知っている  
 『小倉百人一首』の歌。  
 秋の田の かりほの庵の 苦をあらみ  
 わが衣手は 露にぬれつつ  
 (天智天皇)  
 また もう一首  
 『新古今集』の歌。  
 あさくらは 木の丸殿に わがおれば  
 名乗りをしつつ 行くは 我が子ぞ  
 (天智天皇)  
 いまから千三百何十年か昔  
 あさくらから生まれた  
 古代史のドラマ  
 そして 謡曲「綾の鼓」は  
 そのドラマから生まれた。  
 愛と死の物語  
 エロスとタナトスの饗宴…。  
 「これは筑前の国 木の丸の皇居に仕へ奉る臣下にて候。  
 さてもこの所に桂の池とて名池の候に、常は御遊の御座候。  
 ここに御庭掃きの老人の候が、忝くも女御の御姿を見参らせ、  
 しづ心なき恋となりて候」  
 (『綾鼓』)

人は生き  
 愛し  
 そして どこへ行くのでしょうか？  
 ○おもひ子  
 いづれの星かわが庭に  
 捨てわ子とはなりにけむ、  
 汝が愛らしき面には  
 天つひかりの輝やけり。  
 いかなる書のかげりども  
 徴ありともわかぬども、  
 汝が顔ばかりいつ見ても  
 いつまで見ても飽きたらず。  
 世のうさゆゑに晝となく  
 夜となくくる我が胸も、  
 ひかる汝が目に見られては  
 はれて嬉しくなりぬなり。  
 (宮崎湖処子・作詞 「おもひ子」)

## 5. 樹の精と風と鳥たちのコロス

(ソロA)  
 幻の邪馬台国は どこでしょうか？  
 (ソロB)  
 幻の女王の国は いずこなりや？  
 (ソロC)  
 幻の卑弥呼の国は どこでしょうか？  
 (合唱)  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 幻の邪馬台国は甘木ゲナ  
 幻の卑弥呼の墓は「おんがさま」の町  
 三輪ゲナバイ  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 「古事記」に書かれた「高天の原」をば流れよる  
 「天の安の河」ちいとはな 小石原川こつゲナバイ。  
 小石原川はな 昔は「夜須川」じゃったゲナバイ。  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 ゲナゲナ話は 嘘じゃゲナ  
 いやーあ sori Batten!  
 天照大御神がお隠れになった「天の岩戸」はな  
 宝珠山村の「岩屋」ゲナバイ。  
 (合唱)  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 ゲナゲナ話は 嘘じゃゲナ  
 いやーあ sori Batten!  
 ゲナゲナ ゲナゲナ  
 ゲナゲナ話は 嘘じゃゲナ  
 いやーあ sori Batten!

## 6. 秋月の思い出

甘木 あさくらから  
 遠く離れて暮らしていた頃のこと  
 ある日 とつぜん  
 本棚に見つけた一冊の書物  
 それは 秋月の乱の「秋月堂」。  
 すると その背文字の向うに  
 たちまち蘇る 秋月の思い出  
 まず 古処山の「大将隠し」  
 巨大な岩と岩に挟まれた「隠し岩」  
 また サムライたちの  
 聞こえるはずのない どよめきが  
 幻聴のように聞こえて来る  
 「杉の馬場」の 満開の桜のトンネル  
 そして 八丁越えの潭空庵の冷やしそーめん！  
 ああ あの冷たかった冷やしそーめん！  
 過ぎ去った  
 遠い夏の  
 秋月の思い出。

## 7. 「婆沙羅」哲学

婆沙羅とは 何だろう？  
 何よりも まず 豊かさだろう  
 言葉の本当の意味における 豊かさ  
 そして ゼイタク  
 量だけではない 質のゼイタク  
 誇り高さ 精神のゼイタクだろう。  
 あさくらは 水も Basara  
 緑も Basara  
 江川ダムの水も  
 寺内ダムの水も Basara  
 二百年 まわり続けて  
 いまや あさくらの名物となった  
 二連水車 三連水車  
 田園のSLと呼ばれるお前は  
 あさくらのドン・キホーテだ  
 バサラ Basari  
 Basare バサロ  
 バサラ Basari  
 Basare バサロ  
 むかし 大友・秋月の両軍が  
 筑後川を挟んで戦った  
 その古戦場。  
 原鶴温泉のお湯も Basara  
 柿食えば 鐘が鳴るなり 円清寺  
 杷木町の柿 杷木町のぶどうも Basara  
 ソメイヨシノ 四千本！  
 鬼の枕古墳と向き合っている  
 甘木・丸山公園の桜も Basara  
 悠然として 時間を超え  
 あわてず 騒がず  
 そして 少しばかりボケた  
 少しばかり オドケた  
 あくまでも自由な精神  
 それが  
 あさくらの「婆沙羅」だろう。

## 8. エピローグ／

筑後川、メビウスの帯のような  
 「過去」と「現在」が  
 「古代」と「未来」が  
 そして 天と地が  
 ちょうどメビウスの帯のように  
 くりと反転する。  
 あさくらは そんな幻の宇宙だ  
 疑う者は  
 惠蘇宿の木の丸殿から  
 筑後川を眺めてご覧！  
 ナイル河が ビラミッドを生み  
 黄河が 万里の長城を生み  
 イングス河が  
 遥かなるインダス文明を生んだように  
 あさくらの歴史は 筑後川から生まれた。  
 筑後川  
 もとの名は 千歳川  
 またの名は 筑紫次郎  
 その 千年の川が生んだ  
 あさくらの伝統を  
 いま 私たちは語り継いでゆこう  
 未来に向かって。  
 いま 私たちは歌い継いでゆこう  
 過去を現在につなぎ  
 古代を未来に くりと反転させる  
 メビウスの帯のような川  
 天と地の境を  
 夢見るように流れる  
 永遠の川に誓って！

# 大地の鼓響2018inあさくら公演を応援します

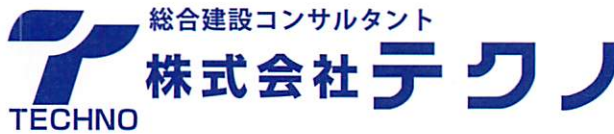
- 泉 徳登美 (筑前町)  
稲本 俊次 (朝倉市)  
江口千代美 (朝倉市)  
江藤 雄二 (福岡市)  
大石 福二 (筑前町)  
大石美代子 (筑前町)  
小川真之介 (朝倉市)  
小川 孝文 (朝倉市)  
梯 久男 (久留米市)  
北原 亨 (筑前町)  
空閑 忠生 (朝倉市)  
熊谷 武夫 (東峰村)  
古藤 容子 (佐賀市)  
酒井マスマ (朝倉市)  
坂田 啓明 (筑前町)  
田中 孔一 (朝倉市)  
信国 力 (熊本市)  
信国 照代 (朝倉市)  
安丸 国勝 (大刀洗町)  
行武 豊子 (筑前町)  
行武美香子 (千葉県)  
秋月カフェ (朝倉市)  
あさくら讃歌太鼓同好会 (朝倉市)  
朝倉青年会議所 (朝倉市)  
朝倉ライオンズクラブ (朝倉市)  
あさくらデンタルケアクリニック (朝倉市)  
朝倉文化協会 (朝倉市)  
味 由 (筑前町)  
甘木双葉幼稚園 (朝倉市)  
甘木連合文化会 (朝倉市)  
寿司・居酒屋 稲穂 (筑前町)  
日本名門酒会 扇屋酒店 (朝倉市)  
(有)鬼塚三喜商店 (朝倉市)  
医療法人 かつき会 (朝倉市)  
北原工務店 (筑前町)  
社会福祉法人宏志会 きらく荘・夢花館 (朝倉市)  
麒麟ビール(株) (朝倉市)  
栗原電設社 (朝倉市)  
桑野自動車車体工業 (筑前町)  
和菓子・もち・饅頭 興膳屋 (朝倉市)  
廣八堂 (朝倉市)  
坂井眼科医院 (朝倉市)  
JA筑前あさくら女性部 (朝倉市)  
篠崎食品 (朝倉市)  
社会福祉法人 寿泉会 (朝倉市)  
贈答品 白水合資 (朝倉市)  
ダイアナリアン河上芳子 (朝倉市)  
筑前町文化協会 (筑前町)  
東峰村文化協会 (東峰村)  
(有)時津自動車整備工場 (朝倉市)  
ニッポー(株)九州工場 (朝倉市)  
二宮土木 (大刀洗町)  
杷木文化協会 (朝倉市)  
馬場サイクル (朝倉市)  
原鶴温泉旅館協同組合 (朝倉市)  
広渡商会(有) (朝倉市)  
ピンク美容室 (朝倉市)  
福島自動車 (福岡市)  
医療法人 福田こどもクリニック (久留米市)  
フジ電技 (朝倉市)  
宝珠山女声合唱団 (東峰村)  
馬田手芸の会 (朝倉市)  
マルナカ設備 (朝倉市)  
山本サイクル商会 (筑前町)  
行武薄板木毛製造工場 (筑前町)  
両筑測量設計協同組合 (朝倉市)  
六峰館 (朝倉市)



# 九州北部豪雨災害復興支援



筑後川 山田堰



総合建設コンサルタント

〒839-0809

福岡県久留米市東合川3丁目1番21号

TEL 0942-44-8700 FAX 0942-44-9070

URL : <http://www.techno-co0.com>

清酒 比良松 長期熟成麦焼酎 千年の眠り

リキュール 朝倉 国菊あまざけ

株式会社 篠崎

蔵元店 千の蔵

朝倉市比良松 185

フリーダイヤル 0120-531-699

TEL 0946-52-0005

FAX 0946-52-1699

FAX 0946-52-2165

・お酒は20歳になってから ・飲酒運転は法律で禁止されています